



HANDA CUP 第54回全日本プロボウリング選手権

11月27~29日/新狭山グランドボウル

▶破竹の勢いで全日本も2年ぶり2度目の制覇



輝き増す“すばる” ノンストップの3連勝締め

シーズンは2020年と2021年が統合されるため、例年の最終戦という位置づけとは異なるが、プロのだれもが最大目標とする全日本プロボウリング選手権大会は、11月に入って新設のAPA、さらにSSSカップを連勝中の永野すばる(40期・相模原パークレーンズ)が、3大会連続優勝を飾るという驚きの結末となった。(主催:(公社)日本プロボウリング協会/一般社団法人国際スポーツ振興協会)

前年度ランキング上位24名、歴代選手権者、永久シードプロなど、出場資格を有する96名によって争われた。予選24G、準決勝12Gの36Gトータル上位4名が決勝ステップラダーに進んだ。予選を5103のトップでクリアした

のは藤井信人。しかし藤井から126ピン差の4位につける永野は「予選をある程度のポジションにいれば、自信を持っている準決勝のメディアムパターンでトップを狙えるかな」との思惑どおり、各選手が苦しむ準決勝で2529を打って、トータル7506で3年連続のトップシードを決めた。

トップは明け渡したが、藤井が2位に踏ん張り、準決勝で永野を上回る2536を打った山本勲が3位、谷合貴志が4位での進出となった。長丁場に加え、3パターンのスポーツコンディションで行われるとあって、実力者が順当に上位を占めたが、前年優勝の川添奨太は7位で終戦となった。

4位決定戦

山本と谷合の4位決定戦は、1フレともにオープンスタートのあと、山本が2フレからターキーでリードを奪う。谷



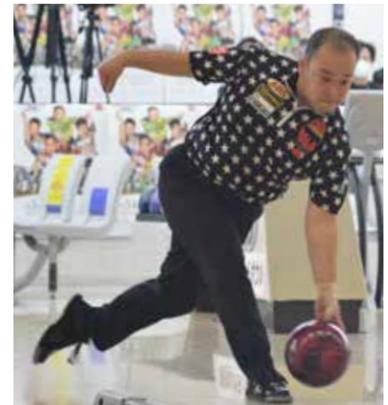
▲APAに続いて永野に敗れ準Vの藤井「メディアムに苦手意識はないけど、レーン移動して全然違うレーンに感じたときの対応力にすばるクンとの差を感じた」

合が4フレからのターキーで並ぶと、山本は6フレ①③⑦⑨をカバーならずオープン。谷合が215:188で押し切った。

3位決定戦

谷合が2フレからのターキーで先行したが、藤井が5フレか

らターキーで追い詰めて、後半「予想外の変化の仕方」に戸惑っていた谷合は、8フレをカバーミスでオープン。9フレまでフィフスと伸ばした藤井が238:200で制して優勝決定戦に進んだ。優勝決定戦に1フレ、藤井が④⑥⑦⑨⑩を残すビッグファイブでオープンすると、永野も全く同じビッグファイブでオープン。しかし藤井が「いざ始めてみたら、3位決定戦のときよりも変化していたオイルを感じなかった」と戸惑いがあったのに対し、永野は「緊張して内ミスをしただけ。しっかり投げれば大丈夫」と、

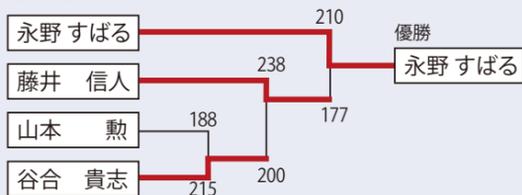


▲全日本で徐々に決勝進出の山本「メディアムに対する合わせ方に自信が持てたので、これを来年に生かしたい」



▲3位の谷合「全日本のタイトルを目指して日々から練習をしているので、チャンスのときになかなか勝ちきれないのは悔しい」

●決勝ステップラダー



●優勝決定戦

永野すばる	⑤	3	38	64	84	104	133	153	173	193	210	
藤井 信人	⑤	1	9	26	53	72	81	90	108	127	147	177

優勝・永野すばるのコメント

全日本は基本的に我慢の展開になる。自分よりも打ち合いよりも我慢する方が好きなんです。とくにメディアムコンディションは、ハイスコアにはならないけど、外に対する恐怖心がないので思い切って投げられるのが大きい。今回は予選のショートで離されて厳しいかなと思ったけど、メディアムの準決勝で結果的に目標としていたトップシードを取れた。2連勝して臨む全日本は、

めちゃくちゃプレッシャーがかかった。大丈夫かな、大丈夫かなとネガティブなことしか考えられなかった。優勝決定戦も最初はドキドキしていて、思い切って振りにいけていなかったの、とにかくしっかり投げようと言いつつ、こもった投球をすればピンが倒れてくれると信じて投げたが、それがいい結果につながって



れたと思う。本当にしんどくて、やっと終わったというのが本心。だから来年のことは今は考えたくないし、考えられないです。(優勝ボール: STORMアクシオム・パール)